

平成 15 年 4 月 18 日

各 位

会 社 名 株式会社シーエスアイ
代表者名 代表取締役社長 杉本 恵昭
(コード番号 4 3 2 0 東証マザーズ)
問合せ先 常務取締役管理本部長 浜辺 武志
(TEL . 0 1 1 - 2 7 1 - 4 3 7 1)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 14 年 11 月 15 日(単体)及び平成 15 年 2 月 7 日(連結)に公表した平成 15 年 9 月期(平成 14 年 10 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

尚、中間期につきましては、当初の業績予想の範囲で推移しておりますので修正を行う予定はありません。また、期末配当金につきましても 1 株につき普通配当 2,000 円¹とする予定で変更はありません。

記

1. 当期の業績予想(連結)数値の修正(平成 14 年 10 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日)

(金額の単位:百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,353	363	167
今 回 修 正 予 想 (B)	2,840	216	86
増 減 額 (B A)	513	147	81
増 減 率 (%)	15.3	40.5	48.5
(ご参考) 前期実績(平成 14 年 9 月期)			

(注)平成 14 年 12 月 2 日付で 100%子会社として株式会社シーエスアイ・テクノロジーを設立したことにより、当期より連結財務諸表を作成しておりますので、前期実績は記載しておりません。

2. 当期の業績予想(単体)数値の修正(平成 14 年 10 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日)

(金額の単位:百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,312	375	176
今 回 修 正 予 想 (B)	2,800	228	96
増 減 額 (B A)	512	147	80
増 減 率 (%)	15.5	39.2	45.5
(ご参考) 前期実績(平成 14 年 9 月期)	2,448	202	110

3. 修正の理由

当期は、主力事業の電子カルテシステム開発事業において、厚生労働省の電子カルテ普及に対する施策等により病院・診療所の関心が高いことから、中小規模病院をターゲットに病院向け電子カルテシステム「HS-MI・RA・IS(エイチエスミライズ)」製品の販売と導入に注力することで、前期と比

¹ 平成 14 年 11 月 15 日に公表した期末配当金 1 株につき 4,000 円につきましては、平成 14 年 11 月 20 日付で 1 株を 2 株に株式分割を行ったことにより 2,000 円と読み替えております。

べ受注金額及び売上高は増加する見通しではありますが、次に掲げる理由により、上期（平成 14 年 10 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日）の受注金額が、当初の見通しより下回る状況となりました。これに伴い、下期（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日）の売上高に影響が出る見通しとなりましたので、通期の業績予想数値を修正するものであります。

前記にありますように、病院・診療所の関心が高いことから全国からの引合いは多く、受注件数は好調に推移し当初の見通しより増加しておりますが、病院における導入コストやシステム化への院内体制の整備を踏まえオーダリングシステム²や医事会計システム³から段階的に導入又は入れ替えを行い、最終的に電子カルテシステムを導入することで医療情報のトータルシステムを構築していく病院が多かったことにより、受注単価が減少いたしました。

これについては、全国の医療情報システム取扱い会社を中心とした販売提携先（サポート販社⁴）の活動が本格化してきたなか、各サポート販社も、「HS-MI·RA·Is（エイチエスミライズ）」の機能のうち、まずはオーダリングシステムを導入し⁵、ユーザー数の拡大に注力したうえで、電子カルテシステムの導入に結び付けていくといった戦略をとっていることも要因となっております。また、自社営業におきましても、大型物件の受注が無かったことも要因となりました。

当社の事業計画は、厚生労働省の電子カルテ導入病院への補助金により受注が拡大することを折り込んでおりますが、この補助金については、行政の年度末にあたる 3 月に、補助金対象病院が決定し受注することで当期中に売上が計上されることを前提としております。平成 14 年度の補正予算につきましては、当初、病院における電子カルテ等の導入を推進することを目的に 119 億円の予算が決定いたしました。この補助金申請病院が予想以上に多く、現在 190 億円程度に増額され補助金対象病院の選定が行われているところです。このため上期に受注を見込んでいた病院の中にも、補助金申請を行うところが増え、受注時期が 4 月以降にずれ込むことになり、これら病院についての受注が確定されておられません。また、今後、仮に受注が確定したとしても当期中に売上を計上することが困難な状況に至っております。

また、経常利益及び当期純利益につきましては、売上高減少の影響により当初の予想を下回る見通しとなったものです。

4. 今後の施策

電子カルテシステム市場におきましては、今後も全国の病院・診療所からの引合いが更に増えていくことを予想しておりますので、引き続き電子カルテシステム開発事業に注力し、業容の拡大を図っていく所存であります。

中でも、営業面におきましては、各販売提携先へのサポート体制の充実とタイムリーな連携により受注の拡大を図っていくことと、開発面におきましては、今までの導入実績のノウハウを活かしユーザーサポートの充実と導入期間の短縮を図ることを当面の最重要課題として、下期受注の増加と来期の業績向上に取り組んでまいります。

以上

（注）上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

² 医師の指示（オーダ）を入力し、オーダ受取者がこれに従って処理・処置を行うシステムをいいます。たとえば、医師が薬剤処理を行うと、それがただちに薬剤システムから会計システムまで伝達されます。処方オーダのほか、検査オーダ、給食オーダ等のシステムがあります。オーダ・エントリー・システムともいいます。

³ 医療機関における診療報酬請求事務に関する電算システムをいいます。

⁴ 電子カルテシステムの販売から導入サポート及び保守サービスまでを担当する販売提携先をいいます。

⁵ 当社の電子カルテシステム「HS-MI·RA·Is」はカルテとオーダリングが一体となったシステムですが、診療内容等の電子記録及び保存といったカルテ機能の運用を段階的に進める病院については、オーダリング機能のみでも使用できるシステムとなっております。